

1分で読みとくアメリカ

読得
目ミトク

No.10

シェールガス・オイル開発の現場から

日本の石油開発会社で実際に米国のシェール開発に携わっている方にお話を伺ってきました！

●シェールガス・オイルは米国のどこで採掘可能ですか？

太古海であった場所にシェールガス・オイルが眠っている可能性があります。

●なぜ米国でシェール開発が進むのですか？

- ① 米国の場合、地下資源は土地所有者に帰属し(日本などは公有)、シェール開発の利益は開発者だけでなく土地所有者にももたらされるため、開発に積極的。
- ② 従来型ガス・オイルの採掘時に蓄積された地下のデータ（どこにシェールガス・オイルが眠っているか）を活用可能。
- ③ パイプライン網などインフラが既に整備されていることで、生産業者にとって、従来型ガス・オイルよりも初期投資コストが安く参入が容易。



見せていただいたシェールを含む頁岩のサンプル
(採掘場所は企業秘密とのこと)

●シェール開発を行う業者は何社くらいありますか？

大手企業だけでしょうか？日本の企業も参入していますか？

大手で50～100社、中小業者を含めれば無数にあり、4～5名で切り盛りしている会社もあります。米国では業務の分業が進んでおり、採掘したガス・オイルをパイプラインに繋ぎ、処理・加工などはインフラ提供業者（MLP（マスター・リミテッド・パートナーシップ）など）に任せれば、少人数でも開発可能です。当社を含め開発を行っている日本の企業はありますが、探査・採掘の技術を持ち、「ランドマン」という土地所有者を説得し採掘権のリース契約を結ぶ不動産のプロを多く抱える米国の大手業者が強いのが現状です。

●開発技術は進化していますか？

深い場所を採掘できる、一度のフラッキング（シェール採掘のための水圧破碎法）でより多くの面積をフラックできるなど、技術が進化したことで生産性は向上しています。また、水質汚染防止のため使用する水量を削減する技術や、空気を使い採掘する技術なども開発されています。

シェール開発は、「現代のゴールドラッシュ」と言えそうですが、その果実を誰が得ることができるかしっかり見極めて行く必要があると感じました。



Asset
Management

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(I)複写、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(II)再配布することを禁じます。

<審査番号: 113124.OTHER.OTU> © 2013 Goldman Sachs. All rights reserved.